

移住した皆さんに
インタビュー

ようこそ 小野町

東京銀座で開催した「ふるさと暮らしセミナー」には、定年前後の年代の方が数多く参加されました。シリーズ第7回では「定年後をどう過ごすか」という課題に向き合っ、小野町に移住されたご夫婦をご紹介します。

◆いつ小野町へ移住しましたか？

平成12年に千葉県から移住しました。

◆なぜ移住しようと思いましたが？

定年退職の10年ぐらい前から、定年後の生活について考えていました。定年後に燃え尽き症候群のようになりたくないと思っていました。自分の生まれが新潟県で、米・水・酒がおいしい所で育ったこともあり、定年後も核家族の多い都会の団地の中で暮らすより、田舎で暮らしたいと考えるようになりました。

◆なぜ小野町に決めましたか？

田舎暮らしに関する雑誌を買って、北海道や新潟、宮崎など日本全国いろいろな所を見てまわりました。広くて安い土地があったこと、ICが近くて便利なこともあり、小野町に決めました。

◆知り合いがいない所で生活するのは不安ではありませんでしたか？

もともと転勤族だったので、新しい土地で生活することには慣れていました。お葬式の手伝いをしたことで、地域の人と分かり合えたと思います。行政区の役員を務めたことで、さらに地域に受け入れられたと感じています。

◆小野町の魅力は何ですか？

人が優しいこと、住みやすいこと、景色が良いこと、野菜がおいしいこと、星空がきれいなことなど、魅力はたくさんあると思います。県外に住んでいる子どもたちも新緑の季節や紅葉の季節に遊びに来て、楽しんでいるようです。

お忙しい中、インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

小林汪さん、宜子さんご夫婦
(塩庭一区)



ご自宅のお庭にあるハウスには、おいしそうな野菜が育っていました。県外にお住まいの子どもさんも、ご夫婦が育てた野菜を楽しみにしているとのこと。

ふるさと小野町会 ふれあい通信

ふるさとと共に 頑張ろう

泉 敏雄
(吉野辺出身・東京支部)



4月半ば現在、東京の桜はすでに葉桜になってしまいました。夏井川の千本桜はまだ大丈夫のことと思います。

海軍記念日には高柴山の躑躅が花を開くことと思います。故郷の山や川、全て懐かしく思い出します。「ふるさと小野町会」の支部懇親会に出席し、同郷のみなさんに会って話をする度に田舎のことを思い出しています。

「ふるさと小野町会」も小野町が元気でなければ、「なつかしい ふるさと」というだけで終わってしまいます。「ふるさと小野町会」ももっともつと小野町の活性化の手伝いが出るよう、夫々立場での努力をしたいと思います。

「ふるさと」の皆さん、頑張ろうではありませんか。

ばあさんになってしまい、私もそれなりの年齢になってしまいました。昔は車をとせば、2時間半程度で行くことができた小野町も少し遠く感じるようになりました。

さて、話は変わりますが、現在、私は徳島県の阿南市から取り寄せた人参の仕分けをして、食卓のために備えています。

お知らせしたい事は、つまり、東京に住んでいる人にとっては、生産者の顔が見える農産物が良い物として受け入れられる時代になっているということです。

時代に沿うためには、小野町の農産物生産者も販売方法に一考が必要かと思われま。